

心を一つに 一本のたすきをきつなぐ

二〇〇五年に開催された愛・地球博を記念した「愛知万博メモリアル第二回愛知県市町村対抗駅伝競走大会」が十二月一日、長久手町の愛・地球博記念公園で開かれ、町村の部に参加した阿久比町は十五位で昨年より順位を下げましたが、選手たちは心を一つにして「阿久比町」のために一本のたすきをつなぎました。

第2回愛知県市町村 対抗駅伝競走大会



阿久比町チーム 町村の部15位



最後の力を振り絞りたすきを次走者へ

公園内の九区間二八・六キロの周回コースを、県内全六十三市町村が市と町村の部に分かれて、小学生から四十歳以上までの男女年齢別で健脚を競いました。



力走する選手たち



たすきは1区から2区へ

選手たちは午前八時に会場入り。全員で軽くウォームアップをした後各自で調整を続け、午後零時半のスタートを待ちました。
前半戦は昨年を上回るハイペースで上位入賞をねらえる好位置をキープしましたが、後半戦はペースダウンして残念ながら順位を落としてしまいました。
チームを率いた乾民樹監督は「最後まで一本のたすきをつなぎ頑張つて完走してくれました。選手自身や町民の皆さんには満足いく順位ではないかもしれませんが、町の代表として力の限り走り抜いてくれた選手や、陰で選手をサポートしてくれた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです」と駅伝終了後に話し、選手たちの健闘をたたえました。